

ぎかい



2019.4.2

小国町議会だより 第**140**号



旅だち

平成31年3月2日(土)
小国高等学校卒業式



表紙関連記事は16ページ

**31年度
当初予算
7対2で可決**

主な内容

- 2～ 5ページ 一般会計
過去5年で最大
- 6～ 7ページ 予算審査総括質疑
- 8～14ページ 一般質問6名登壇

一般会計 過去5年で最大 60億4700万円

31年度 予算

3月定例会の あらまし

3月定例会が3月5日から15日までの11日間の会期で開催されました。本年度補正予算7件、新年度予算12件、9件の条例、第5次小国町総合計画基本構想など2件の計31案件を上程しました。1日目に町長の施政方針表明、提案理由説明の後、4名の議員が一般質問を行いました。2日目に2名の議員が一般質問を行った後、予算審査特別委員会で審査を行い、本会議最終日に新年度予算を7対2で可決しました。

町民総合体育館改修 おぐに保育園屋根塗装修繕

平成31年度の一般会計予算の総額は60億4700万円、前年度対比4.8%増で、過去5年では最大規模となった。

に向けた準備が中心となる、白い森みらい創生事業に取り組む。

限られた財源を有効活用し、安全・安心な暮らしの実現に留意する一方、

移住・定住では首都圏での移住イベントへの参加やお試し滞在への支援の取り組みを行う。

白い森まるごとブランド構想の実現を目指し施策を展開する。

町民総合体育館の改修・備品整備、おぐに保育園屋根修繕、道の駅機能拡充等に予算を

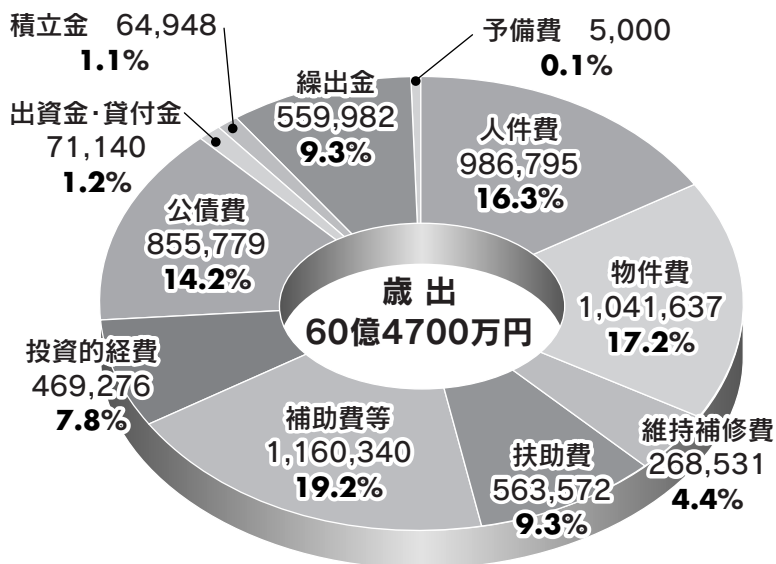
地域経済への波及効果が期待できる、貝少地区で事業化を進める養鶏業者への作業支援として進入路等の整備を行う。

配分した。

また、町立病院で電子カルテシステムの更新を行う。

地域総合商社の設立

グラフで見る歳出予算(単位:千円)



陳情

●山形県立小国高等学校への更なる支援要望について
陳情者

県立小国高等学校を支援する会
会長 安部昌晴

内容(要約)

- 1 保小中高一貫教育の推進を目的とする支援策の拡充
- 2 全国小規模校サミット等への開催支援
- 3 教育環境の質の確保
- 4 山形県に対する存続要望活動の充実

●その他3件の陳情

- 全国知事会の提言の趣旨に基づいて、日米地位協定の見直しを国に求める陳情。
- 放置人工林を森林環境譲与税で天然林に戻すことを求める陳情
- 辺野古新基地建設について、沖縄県民の民意を尊重することを求める陳情

正算 補正

除雪経費を 議決

2月臨時議会で一般会計補正予算第7号(専決処分の承認)、第8号の2件が提案され、除雪経費を可決した。

補正予算第7号
歳出 5000万円
補正予算第8号
歳出 8000万円



ふるさと納税額 予定を上回る

3月定例会では、一般会計補正予算1件、特別会計補正予算4件、事業会計補正予算2件が提案され、可決した。

一般会計補正予算では、ふるさと納税が予定を上回る申し込みがあったことから、返礼品に要する経費を追加した。

国が風しん対策を進めることに伴い、抗体検査に要する経費を計上したほか、対象者の管理を行う健康管理システムの改修を行う。

除雪経費について、融雪対策に万全を期すため追加した。

平成30年度各会計補正予算主要内容 3月定例会

会計別	歳入歳出予算
一般会計(第9号)	62億2610万円 (3111万円を追加補正)
国民健康保険事業会計 特別会計(第4号)	8億324万円 (1468万円を追加補正)
下水道事業特別会計 (第4号)	3億4449万円 (1780万円を減額補正)
介護保険特別会計 (第4号)	10億1992万円 (115万円を追加補正)
病院事業会計	102万円を補助金・ 交付金収入に追加
水道事業会計	2371万円を 減価償却費に追加

条例

議員報酬見直し

23年ぶり

●小国町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

町議会議員の報酬

について、月額3万円の増額となる。平成8年度以来据え置かれていたこと、置賜町村会構成団体で増額が予定されていること等を踏まえ、小国町特別職報酬等審議会の答申を受け提案されたものであり、本会議において可決した。

この件については予算審査、予算総括質疑において議論が交わされ、本会議における採決で予算案が承認された。

新

議長	340,000
副議長	280,000
議員	265,000

旧

議長	310,000
副議長	250,000
議員	235,000



●小国町中央児童室設置条例の一部を改正する条例

中央児童室の定員を70名から80名に増員する。

その他

●小国町森林整備等促進基金条例の設定

●小国町課設置条例等の一部改正など

人事

人権擁護委員

候補者の推薦について意見を求められ、適任と認めた。

松山 茂(再任)

小国町大字岩井沢

平成31年度

予算審査特別委員会



協力隊の方々

3月6日から8日にかけて、新年度予算の内容を各担当課から説明を受け、審査した。

総務企画課

Q 「地域おこし協力隊」は、地域への貢献や地域を活性化するなど活躍しているが、どのような支援を行っているのか。

A 報酬は国の基準により積算している。家賃等その他の経費は町が負担し、支援している。

Q 議員報酬の見直しはどのような経緯があったのか。

A 平成8年までは2年ごとに見直されていたが、その後は改正されていない。今年度は置賜各町で改正の取り組みがあり、これに合わせて実施することにした。後継者不足解消にもつなげたい。

Q 駐在員組織のあり方等は検討したのか。そのことが予算にどう盛り込まれたのか。

A 駐在員の高齢化やなり手不足など、その業務に関しては各自治体が問題を抱えている。

今年度は現行のままスタートするものの、段階的に検討していくこととしたい。

町民税務課

Q 「ご当地ナンバー交付事業」の内容は。

A 白い森ふるさと応援基金(※)を活用し、白い森ブランドマークを周知することを目的に、町で独自に50ccバイクのご当地ナンバープレート希望者に交付する。



※白い森ふるさと応援基金
ふるさと納税の寄付金を「白い森ふるさと応援基金」として積み立てるもの。

Q 平成31年度の小国中継施設(明沢リレーセンター)の土日の営業計画は。

A 30年度と同様に営業する予定である。

また、一般家庭でのゴールデンウィーク10連休中のごみ収集の対応を検討している。

産業振興課

Q 野生キノコ出荷自粛解除に向けた取り組みの経過と今後の見通しは。

A 自粛解除に必要な検体数は品目ごと60検体なので、それを今年度中に達成したいと考えている。達成したキノコごとに解除の申請を行っていく。

Q 道の駅物販ブースについては、多種多様な町内業者にも参入してほしいが、どのような検討をしているのか。

A 物販ブースには、一定の業者だけでなく、複数の町内業者がチャレンジショップのようにして営業できるように検討をしている。



Q 「石楠花祭り」の予算が例年よりも増額となっている。まつり開催で期待される効果をどのように考えているのか。

A 「おぐに石楠花まつり」は本年30回目の節目を迎える。9日間の期間中に多くのイベントも検討している。直売所の仮オープンも予定しており、町内外からの誘客増につながる効果を期待している。

「おぐに石楠花まつり」は本年30回目の節目を迎える。9日間の期間中に多くのイベントも検討している。直売所の仮オープンも予定しており、町内外からの誘客増につながる効果を期待している。

地域整備課

Q 冬期間、道の駅に出入りする際の危険を回避するための除雪対策やカーブミラーの設置は31年度に計画されているのか。

A 国道の除雪の際に、特に出入り口の除雪には留意するように国交省にお願いしているが、ミラー設置は、道の駅を設置する際に無くても支障がないと申請しているので、今後、国交省と相談

してみたい。



Q 町営住宅改修の予算について、幸町住宅の現状と今後について伺う。損傷の激しい建物もある。

A 幸町住宅は現在13棟に14戸が入居している。昭和40年代後半の建築で老朽化は激しい。1棟に2戸が入居しているので、2戸が空いた状態になった時に解体をしている。長年入居されている方もいるので、退去を促すことは難しい。

A 幸町住宅は現在13棟に14戸が入居している。昭和40年代後半の建築で老朽化は激しい。1棟に2戸が入居しているので、2戸が空いた状態になった時に解体をしている。長年入居されている方もいるので、退去を促すことは難しい。

A 幸町住宅は現在13棟に14戸が入居している。昭和40年代後半の建築で老朽化は激しい。1棟に2戸が入居しているので、2戸が空いた状態になった時に解体をしている。長年入居されている方もいるので、退去を促すことは難しい。

教育委員会

Q 備品購入に関して、小中学校とも図書や運動具、部活動にかかる備品が充分ではないと聞いている。子どもも少ないので、充分な備品整備をしてほしいと考えるが、どのような基準で予算を決めているのか。

A 各学校から提出された要望を校長会で取りまとめ、それを基に教育委員会として優先順位を考え、予算要求をしている。そのため、すべて学校側の要求にお応えできないこともあるが、了解いただきたい。

Q おぐに保育園西側屋根塗装工事の工期は、

A 天候の関係もある

ので、梅雨明けから工事を開始し、工期は3カ月程度を予定している。



健康福祉課

Q 特別支援学校通学支援の事業内容は、

A 障がい児の移動支援を福祉有償運送事業者に委託する。全体の経費の1割程度を利用者に負担していただき、約

2000日の運行を予定している。

Q 自殺対策計画では、うつ病対策も必要だと考えるが、相談窓口などは設置するのか。

A 31年度は人材育成を中心とした取り組みである。継続して心のサポーター養成のための講演会を実施する。相談窓口についての予算は計上していないが、計画を踏まえ、そうした取り組みを進めていきたい。

町立病院

Q 電子カルテの更新の予算があるが、何年使用しての更新なのか。定期的な更新が必要な予算なのか。

A 現在使用している

システムは平成24年から稼働し、7年が経過している。コンピュータ技術の進化は早く、6〜7年ほどのサイクルで更新をする必要がある。このシステムは医療インフラの基軸であるので、不具合が起きないよう定期的な更新が必要となる。

Q 人口減少による患者の減少の影響が大きい中、包括ケア病床の活用は重要である。老人ホームの待機者も多い中、従前と同様の病床数で運用するのか。

A 包括ケア病床は現在10床運用している。患者の実態を踏まえ増床する方向で検討に入っており、実績を確認しながら、準備を進めている。病院内の診療体制と共に、収益増に結びつける対策を講じていく。

総括質疑

間宮尚江議員

保小中高一貫教育の推進に関して

間宮 地元新聞活用による今後の展開、成果はどのように考えているのか。

町長 中高一貫教育として、NIE(教育に新聞を)は、一学級一新聞活用で小中学校に支援している。地元新聞活用による郷土愛を育む教育、活字離れへの対応等、2年目の導入で一定の成果は見られる。

間宮 今後は企業就職へのNIE教育(ビジネスに新聞を)も有効

になると考えられる。また保小中高一貫教育の国際教育の観点から、小国高校への英字新聞活用の支援は出来ないか。

町長 小国高校への支援として英字新聞の活用も検討中であり、NIE教育も企業就職の際には重要になってくるものと認識している。

間宮 英語検定受験への支援を、各級全てに拡充できないか。

町長 3級以上の検定料1回分の支援を行っているが、全級検定支援については今後の検討課題としたい。

間宮 町の税金で支援するということは、生徒達に自覚を持たせることに直結すると思う。資格取得は明確な目標設定に繋がる。大学入試に向けても、選べる検定として小国高校へはTOEIC検定等の導入はできないか。

町長 TOEIC検定は、全国的に入試や企業でも有効であると認識している。

米野貞雄議員

固定資産税減収の要因は

米野 固定資産税が前年比で113万円の減

となっているが、この要因は何か。

町長 滞納繰越分の減額が一番の要因である。

町税等における滞納繰越調定額が、年々増額の状況にあることから、平成28年度から32年度までの5年間で、滞納額の減少と累積分の整理を行うことを目標に取り組むこととしている。

時点修正業務と固定資産税課税額の関係は

米野 平成31年度固定資産税額の決定のために行われた不動産鑑定評価の時点修正業務の結果と課税の関係は。

町長 不動産鑑定評価額を基に路線価を算出し固定資産税課税額を決定している。

適正な時価を求める

ため、3年ごとに評価額を見直す制度になっているが、地価が下落している場合に、基準年度価格に修正を加えることができる特例措置があり、当町は毎年7月1日を基準日に時点修正を行っている。

米野 不動産鑑定が行われた12地点の評価はどう鑑定されたか。

町長 全国的に地方では人口減少、高齢化等により地価の下落が止まらない地域が多く、当町でも同様の状況にあるとの鑑定結果が出されている。

今 康成議員

議員報酬増額の経緯は

今 議員報酬増額について、審議会の答申を

尊重するものであるが、諮問するに当たつての経緯と答申を受けて、どのように考えて提案をしたのか。

町長 提案に至った背景として、全国的に問題視されている議員のなり手不足の要因に、報酬が不十分であるとの指摘がある。総務省の研究会でも、議員報酬の水準は、議員の生活給を保障するような水準とも言われており、その機運が高まっている。先般、議会活性化に向けた活動が明らかにされたことと合わせ、引き上げが必要と考えた。

もつと議論が必要ではないか

今 議員活動に対する報酬として、政務活動費や各種手当といった考えもあるので議論が

必要ではないか。今回の増額により議会としての今後の協議が委縮してしまうことになりはしないか。

町長 小さな自治体議員の形態は集中専門型とされ、議員は議会活動に相当な専門性と時間を割いている。大人数の議会に比べ、人材が育たなかったり、出てこないとも言われている。議員報酬の増額で、若いや町政に興味がある方が参加できるような活性化の形があっても良いのではないか。

議会からの新たな提案があれば、審議会に諮問する。今回の提案は、議会活動を、より集中して働き易くする体制作りと理解してほしい。

石山久美子議員

施政方針について

石山 施策の構築にあたり「先を見る目」「投資のタイミング」「町民の意見を聞くこと」の視点で精査した、とあるが、具体的にどの事業に反映したのか。

町長 地域経済の指針であり、これによって事業を起こしたというわけではない。自治体を取り巻く課題は多様化、複雑化している。

問題解決の糸口を見出すうえで必要となる視点として3つを指針とした。

議会議員の報酬額の改定について

石山 予算の内示で議員の報酬額が増となることを知った。今、本当に報酬の増額が必要なのか。

町長 特別職の報酬等

審議会に諮り、その答申を受けたうえで提案をした。

石山 報酬が上がる事に対して町民の意見を聞くと、納得していない町民もいる。

町長 議会は議会活性化に向けて相当な方向付けをして取り組んでいる。そのような中で、それなりの報酬を手当てすることは町民に対して十分説明しうるものだと思う。

その他の質問

●(株)いきいき街づくり公社への支援事業について

●一般会計から病院事業会計への負担金について

平成31年度予算案を承認

予算審査特別委員会報告書(要旨)

2019年は、白い森まるごとブランド構想の実現を目指し、新たに策定した第5次小国町総合計画基本構想に基づいた施策を開始する時である。協働のまちづくりを行財政運営の基盤としてこれまでの仕組みや展開方法を見直し、持続的な町の発展に向けた各種取り組みに期待し、平成31年度予算審査の報告に当たって次のとおり意見を付す。

1 ふるさと納税の増額予算は、「白い森まるごとブランド戦略」の成果が見え始めてきたものと評価する。引き続き多様な取り組みにより小国町の認知度向上と魅力づくりに取り組まれ、豊かな町民生活に結び付くことを期待する。

2 保小中高一貫教育の推進に当たって、「人」づくりの観点から小国高等学校を含むキャリア教育は大変重要である。

小国町を知る、学ぶ機会の創出について、今後とも学校間の連携をさらに深め取り組まれるとともに、特色ある教育の推進に関して町内外への情報発信を積極的に実施されるよう望む。

少数意見

予算案に反対の議員から少数意見報告書が提出された。

意見の要旨

1 小国町議会議員の報酬額の改定において、議会になんら説明や議論もなく、議員一人月額3万円の増額の提案は現時点において、町民に理解が得られなく同意できない。再度十分な審議をすべき。

2 休校校舎等の活用や周辺住人への安全、環境対策等の取り組みが見えていない。

3 (株)いきいき街づくり公社支援における効果的な事業展開を望む。

4 小国町立病院の新改革プランを実行し、効率的な病院運営を望む。

提出者 米野 貞雄議員
賛成者 石山久美子議員

一般質問

町の考えを問う

3月定例会では、6人の議員が一般質問を行い、2日間にわたり議論を展開しました。

質問と答弁を要約した内容は9ページから14ページです。

なお全文記録（議事録）は小国町議会ホームページに掲載しますのでご覧ください。

小国町議会

検索

小関 和好議員 9ページ

- 空白地有償運送の今後の展開について
- 町民の交流の場の創出について

小林 嘉議員 10ページ

- 道の駅「白い森おぐに」の改修事業について

間宮 尚江議員 11ページ

- 買い物困難者に対する支援について
- コロラド州訪問の活動内容と成果及び今後の展望について

伊藤 重廣議員 12ページ

- 産業の発展への取り組みについて

石山久美子議員 13ページ

- 山形県立小国高等学校の存続にむけた町の支援について
- あけぼの町有地の売却について

米野 貞雄議員 14ページ

- 「透析の中止」は町民に何をもたらしたか
- 車検切れの公用車使用について
- あけぼの地内の町有地売却について



一般質問とは

議員が町長などの執行機関に対し行財政全般にわたり、事務の執行状況や将来の方針などについて、所信や疑問をただすこと、あるいは報告や説明を求めることを言います。

本町議会の質問時間は、1人60分以内で、答弁時間を含みます。



○今後の高齢者の足の確保 ○世代ごとの交流の場の創出

こ せき かず よし
小 関 和 好 議員

*空白地有償運送の
今後の展開は

町内における
高齢者の移動手段の
確保は大きな課題

小関 高齢化が進む当町では、高齢者の足の確保は大きな問題である。現在、北部地区で取り組まれている空白地有償運送という先進的な試みは、交通手段に困っている高齢者にとって希望になると考えている。今後の空白地有償運送の展開を聞く。

町公共交通会議等の
意見を参考に足の確
保に努める

町長 現在、北部地区において、空白地有償運送

の実証運行を行っている。これまでの実証運行を踏まえ2月18日にアドバイザーを招いて、運行主体である北部地区振興協議会と課題等を整理する検討会を開催した。

今後も地域の方の意見や要望に耳を傾け、課題整理を行い「小国町地域交通網形成計画」の目標年度である平成32年度までに本格運行の判断をしたい。

中山間地における足の確保は、高齢者が生き生きと生活する上で重要な問題と認識している。しかし、現行制度を導入するには、運転手の確保や運行経費の問題、既存の交通体系との調整、民間事業者との協議等、課題

も多く、多面的な検討が必要である。引き続き「小国町公共交通会議」等での意見も参考にしながら高齢者の足の確保に努めていく。

町まで運行して欲しいという声は

小関 地域内の運行だけではなく、町まで行きたいとの声を聞くが、検討会で意見は出なかったか。

町民税務課長 利用者のアンケートで20人中2人からそのような意見があった。

高齢者が使いやすいシステムを

小関 公共交通の空白時間を利用した有償運送を運用している地域もあるようだ。規制をクリアして高齢者が自由に使いやすい空白地有償運送のシステムを確立していただきたい。

*町民の交流の場の
創出について

交流を楽しむ憩いの
場は必要

小関 温泉健康館「ゆ〜

ゆ」から始まり総合センターの温泉は、目的は入浴であるが、そこでの交流を楽しむ人が多くいたように、世代ごとに交流の場は必要と考える。そのような時間は精神的にプラスの効果をもたらすと考えるが、町長の考えを聞く。

今後も交流事業に取り組んでいく

町長 地域社会の構築や産業の振興、安心安全な生活環境の創出、教育の振興など、様々な分野において交流を軸として発展させていく仕組みを作っている。今後も地域社会や住民が主体的に行っている交流事業への支援や、町が取り組んでいる

事業を継続するとともに、観光を軸とした施策の展開と「道の駅」の機能拡充による交流人口の拡大に努めていく。

小関 子育て世代のために新たな公園の設置は。

町長 公園設置については、様々な制約はあるが、早急に場所の選定をしたい。

小関 高齢者の交流の場として定期的に「梅花皮荘」や「りふれ」を解放したらどうか。

町長 憩いの場をつくるという意味で非常に良い企画だと思うので、至急検討したい。

道の駅「白い森おぐに」の 改修事業について

こばやし よしみ
小林 嘉 議員



**道の駅改修事業
課題解決したのか**

小林 道の駅は休憩、情報発信、地域振興など3つの機能を充実に、地域の活性化や観光交流の拠点施設として活用すべきである。これまで幾度か議論されてきた課題を解決し直売所建設に着手しているのか。

隣接地の利用が可能になった

町長 「道の駅は、たくさんの方が楽しめるパーク化に向けてその機能の再検討を図る」と公約し、着実にその環境づくりに取り組んでいる。

道の駅「白い森おぐに」は、平成10年10月からオープンしている。

あくまで既存施設群の活用であることから、施設機能の配置課題や、土地利用上の制約、また、施設等の老朽化、休憩、販売エリアの狭さなど、解決すべき課題が山積しているのが現状である。本年度は、長年の課題であった道の駅の隣接地の地権者の理解を得てその用地を活用し、町内特産品、農林水産物等「白い森ブランド」の販売拠点情報発信基地として直売所のリニューアルをしている。

直売所オープンまでのスケジュールは、本体工事は3月に完成、その後、周辺の外構工事を進め、石楠花まつりに併せ、ゴールデンウィーク期間中にプレオープン、8月にはグランドオープンを予定している。今後は、より多くの町内特産品、農林水産物等の取扱いが可能となる。

地域の魅力発信体制はどのように

小林 道の駅全体の運営管理体制や、購買意欲のそそられる地域特産物の確保等は検討されているのか。

**多くの方々に協力を
求め魅力ある施設にする**

町長 現在、道の駅指定管理者が、運営体制の確立と、新商品の開発、既存商品のブラッシュアップを含めた新たな物産の掘り起しなどに取り組んでおり、オープンと同時に、多くの方々にご利用いただける施設とするため準備を進めている。

高規格道からのアクセス道路、国の意向は

小林 新潟山形南部連絡道路のルート帯案が決定されているが、アクセス道路の建設など国の意向を把握したうえで投資なのか。

**利用しやすくなるように
要望していく**

町長 新潟山形南部連絡道路の「小国道路」は、昨年10月にルート帯案が決定され、事業化に向けて大きく前進し、今後、年度内に国の社会資本整備審議会を経て、国の19年度予算編成後に新規事業化の箇所付けに入る見通しである。具体的なル

ートなどは今後の設計で検討していくものと思われるが、山形河川国道事務所との情報交換に努め、「小国道路」が産業経済、観光交流の活性化のインフラとして、利用しやすい環境となるよう要望活動を展開していく。

◆他に、「あいあい」の活性化について質問した。



活性化が期待される道の駅



○買い物困難者への救済策を問う ○コロラド州と本町の今後の行方は

ま みや ひさ え
間宮尚江議員

***買い物困難者への支援について**

移動販売撤退による町民の不安への対策を

間宮 地域産業サービス事業に取り組まれているが、エコー閉店に伴い移動販売が撤退するなかで特に周辺部において高齢者世帯、一人暮らし世帯は不安を隠せない状況である。

町民が安心して生活できる社会の構築は、施政方針にも示されているとおりである。高齢者の生活を維持すべく早急な対策を講じ、町としても支援すべきと考えるが、町

長の考えを伺いたい。

民間事業者での協議検討を注視して支援していく

町長 町ではエコーの移動販売、電話で注文を受ける御用聞き事業、店舗で買った商品を自宅まで届ける宅配事業に取り組む事業所から成る「小国町買い物物応援事業運営グループ」に対し支援している。移動販売では約80名の利用客があり買い物弱者に対する影響は少なくないものと認識している。

一方で「買い物物応援事業所」を構成する事業所を中心に「移動販売事業」の継続実施に向けて現在協議検討を行っている。聞いており町としては可能な限り支援していく。

各課連動された協議会設立を

間宮 高齢者世帯の自助・共助・安否確認も含め、

更には高齢者の健康促進、引きこもり対策として、町でも各課が連動されたような協議会、検討委員会が必要でないか。

福祉の分野も含め

必要であると思う

観光経済担当課長 県でもサービス産業と自治体とのワーキンググループの話し合い等が実施されている。今後本町でも健康福祉課との話し合いも含め必要になってくると思う。

間宮 町民の不安な声に耳を傾けながら持続的で効果的な検討委員会を立ち上げてほしい。



***コロラド州との交流について**

コロラド訪問の今後の展望は

間宮 コロラド州訪問の目的経緯等は広報並びに担当常任委員会で説明を受け本会議でも議論されてきた。12月定例会における行政報告として訪問の状況を述べられたが、具体的な内容と今後の展望について伺いたい。

様々な分野で連携・交流の可能性が広がる

町長 コロラド州訪問事業は、平成17年から毎年デンバー市にあるイースト高校と小国高校による短期留学を通じた相互交流を実施していること、一昨年デンバー市にある「DBT柔道会」約20人が来町し小国柔道会や柔道スポーツ少年団、学校訪問を通して交流事業を実施したこと、本町経済を担うクアーステック本

社のあるゴールデン市があることをきっかけに、ピーアールによるインバウンド促進や継続的な関係構築を目的としたものである。

ゴールデン市では将来的なパートナーシップの締結に向けて市長と意見交換を行うと共に本町の紹介やゴールデン市内の視察を行ってきた。帰国後、市長より交流の第一歩として今年、市長代理を小国町に派遣したい、両者の素晴らしいパートナーシップの継続を望むとの内容のレターが寄せられた。

訪問では、各所で特産品や観光などの本町のピーアール活動を展開したことにより、様々な分野での連携・交流の可能性が広がると考える。

町の産業の発展に取り組め

伊藤 重廣 議員



町民の幸せをどのように実現するか

伊藤 人口減少をどうやって食い止めていくのか。町長も私達議員も選挙の公約で「町民の幸せ、町の発展に取組みます」と言ってきた。今のままだと人口が近いうち飯豊町に追い越される。12月定例会では職員の給料がアップ、今回は議員の給料がアップである。小国町の納税者の約70%の課税所得額が200万円以下だそうである。このままでは、官栄えて民減ぶとの現象が起こる。町民の幸せ、町発展をどのように実現するのか。

豊かさ・住みよさ・

活力に集約

町長 人は貧しく、不便で、張り合いの無い所には住めないわけで、そのため、まちづくりの課題としては、一つに豊かさの実現、二つに住みよさの追求、三つに活力ある人生の構築に集約され、これらの課題に一体的に取り組んでいく事によって、「産業の活発な展開が人口減少を抑制し、町の発展につながる」ものと考えている。

伊藤 まるごとブランド構想、3つの町づくり計画をどのように取りまとめているのか、トップがちゃんと明示し、それに伴った行動を職員にさせるのがあるべき姿ではないか。

町長 若者の町外流出で中核企業でも人材不足に悩んでいる。町内の

工場を高校関係者や国の職員に見てもらったり、さまざまな形で町の紹介をしてきており、少しずつ結果が見えてきている。ひとつひとつ結果の出る取り組みを進めていきたい。

コメ作りが減っている

伊藤 町長は、中核企業のトップ陣で長く勤めていた。その経営手腕が小国町の窮地を救い、選挙用リーフには人口減に歯止めをかける。とあった。大きく期待をしている。

平成30年小国の水田約950町歩の内、コメを作って良い面積が約600町歩、その内70町歩がコメを作っていない。31年は、コメを作っていないのにつくらない面積が約100町歩になりそうだと。私は採算の問題であると思う。

小国独特の農業形態を作らなければならない

町長 中山間地である本町のコメ作りは厳しい。そのため、耕作放棄地を活用した高収入が期待できる樹木の植栽、コメを中心に畜産用の飼料米や牧草を組み合わせるなど、小国独特の農業形態を作らなければならないと考えている。

第3セクターの活用は

伊藤 私も約24年間この席を借りてきた。24年間の歩みの中で出来るだけ「ゆでガエル」にはならないように頑張ってきた。話をするのは簡単だが、実行するのは大変難儀であった。第3セクターは、町が大きな金を出して造った施設を運営させているわけである。

これをどう活用して利益を上げ、働く場として小国町の一助となる様指

導しているのか。

今がベストではない

町長 第3セクターについては、今の状態がベストだとは考えていない。取締役会、総会等において、その都度いろんな意見を述べている。

町長の尽力を期待する

伊藤 先祖・先輩が子孫のため、町のためと汗と血を流しながら造ってくれたのが今の小国町だ。今を担っている町長を筆頭に、議員・町職員がしっかりと取組んでいかないと先祖に申し訳なく、子孫にそのしわ寄せが行く。町長の尽力を期待する。





○小国高校の存続にむけてさらなる支援を ○あけぼの町有地の売却で 損失はなかったのか

いしやま くみ こ
石山久美子 議員

＊小国高校存続に向けた支援について
小国高校の入学者が減少しているが大丈夫か

石山 第1回全国高等学校小規模校サミットの開催、2018年度「愛の鳩賞」の受賞、さらには「白い森おぐにビジネスプランコンテスト」で起業アイデア賞、オーディエンス賞を受賞するなど、活動めざましい小国高校だが、入学者の減少が存続に大きな影響を及ぼしており、31年度からは募集定員が一学級となる。町にとって小国高校の存

続は重要である。具体的な支援は。

危機感を持って、存続に向け行動してゆく

町長 2019年度入試から現在の二学級から一学級に削減するとの決定は残念である。町としても地元で立地する県立高校の将来への存続に危機感を持っている。毎年度、山形県教育庁及び置賜教育事務所に対し重要事業要望として存続を強く訴えているが、今後も働きかけを強化する。

町民総ぐるみの支援体制の構築が必要

教育長 一学級規模となつた場合の一般的な教育課題として、教員定数の減少などから学校運営が小規模化し、これまで同様の学習指導等の継続に不安要素が生じる懸念がある。

一学級規模となつたことを契機として県立高校

の教育的な存在意義を再確認し、末永い存続に向け、町民、行政、関係機関が知恵を出し合い、魅力ある教育環境創出への支援とその支援の輪を広げていかなければと感じている。

31年度入試志願状況をどう受け止めるか

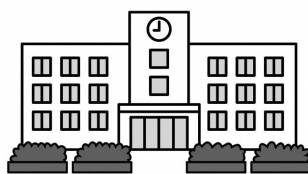
石山 小国高校の入試志願倍率は定員40名に対して推薦連携選抜内定者が18名、一般選抜志願者が4名である。入学者の減少は募集停止にもつながっていくものである。小国高校の閉校が及ぼす影響について調査を行い、改めて存続を考えることも必要ではないか。

町外からの

入学者が必要

町長 全国的な少子化や高校選択のニーズの多様化もあり、町内中学校から小国高校へ進学する人数は減ってきている。こ

れからは小国高校の魅力を活かし、町内だけではなく町外からも子ども達を連れてくるような取り組みが必要だと考え、働きかけを行っている。



＊あけぼの町有地の売却について

あけぼの町有地の取得費はいくらか

石山 昨年12月議会の答弁でこの度売却したあけ

ぼの町有地を含む土地は「平成14年に高齢者住宅整備予定地として町が小国町土地開発公社から取得した」としているがいくらで取得したのか。国・県の補助金等が入っていたのか。

全体の取得費は

1億11万9千円

総務企画課長 取得した

当時の金額は1億11万9千円である。住宅整備事業の総額としては1億7916万1千円であり、財源内訳は国庫支出金が306万1千円となっている。

町に損失が出たのでは

石山 売却した土地の面積に相当する金額は約6千万円になる。それを2620万円で売却したことになるが、町に損失が出たことにはならないか。

鑑定の評価に基づき算出した

総務企画課長 土地を売買する際の金額については、関連規則や自治法などで市場価格、時価で売却することとなっている。これに準じて不動産鑑定士の鑑定価格を基に算出した。

町長の政治姿勢を問う 透析の中止は

町民に何をもたらしたか 他

よねのさだお
米野 貞雄 議員



透析治療に向けた動きをなぜ中止したのか

米野 平成28年2月5日

に山大での会議において、町立病院長は「病院での透析は万全な体制にあると思う。大学の援助もいただけのことを聞いたので進めていきたい」と発言している。それでも中止した理由は。

安全安心の確保は現実
に即していなかった

町長 「医療安全等」「医療従事者関連の不安」「経営」の3つの観点から検証を行った。現段階の町

立病院での診療体制を勘案すると、透析治療の安全安心の確保は現実

に即しておらず、町立病院で人工透析医療に取り組むことは難しいと判断した。

米野 透析中止について

「山形大学に相談する以前に、決定については本来、町がやるべきことだ」と町長は発言しているが、その真意は。

町長 町として独自に透

析医を確保していくことに加え、山大医学部からの医療技術のサポートは実施に向けて重要な要素である。しかし、町立病院として人工透析体制を構築するにあたっての課題があつたため、この検証作業は本来町が行うべきと判断したものである。

米野 平成29年2月18日

付の毎日新聞で、「事実と違う」という見出しで報道されている。この報

道はどう受け止めたか。

町長 記事についてのコ

メントは差し控えるが、透析の実施にあたり、医師の確保や研修のあり方などについて山大医学部第一内科の先生から指導を受けている。その際に「四月以降は、一年一年事情が変わるので山大から医師を派遣することは確約できない」との指導を受けた。

なお、山大医学部には医療環境の構築に多大な指導と配慮をいただいている。

車検切れの公用車使用で責任の検討はどうなつたか

米野 昨年9月定例会で

車検切れ公用車の使用について質問した際、「誠意ある責任を取るべき」との主張に対し、町長は「十分検討する」と答弁したが、その結果は。

法令遵守の

徹底を図る

町長 機会を捉えながら

適正な車両管理、再発防止について指示している。また、全ての行政事務執行にあたっては、法令を遵守し、迅速かつ効率的に行政サービスを確保するよう徹底を図っている。

あけぼの地内の町有地売却は破格の安値ではないか

米野 普通財産を売却す

るときは価格の評定をし、その基礎を明らかにすることとなっているが、どうなっているか。

総務企画課長 鑑定評価

の基礎には、町内の同等な条件地での宅地取引事例から算定する基準価格、あけぼの地内の近年の取引事例から算出する比準価格、収益価格の資産をもとに価格の妥

当性を検討することの3つの視点があるとのことだが、その個々の価格については把握していない。

米野 当該用地の売却価格は、周辺の分譲地売却価格との価格差が大きいが、町民にどう説明するのか。

鑑定の評価に基づいた金額である

町長 町内の老人施設が不足する中で、資産を有効に活用する投資のタイミングである。

また、17年前と現在の土地の価格を比較して、安いので損失だという考えは当てはまらない。

売却価格については鑑定の評価であり、我々が安くしたわけではない。

平成31年 新春懇話会

開催日 1月11日(金)
場 所 小国町役場
講話

「第1回全国高等学校
小規模校サミットを通
じて」
(小国高校における地
域課題解決型学習のね
らいと効果及び地域づ
くりへの関わり)

講師

小国高校校長

柿崎 悦子

教諭

板垣 祥和

小松 千穂



議会研修の一環として、

小国高校より柿崎校長他
2名の教諭の方を講師に
招き講話をいただいた。

懇話会には議員全員の
他商工会や町職員など49
名が参加した。

内容は、昨年8月2日、
小国高校の呼びかけで全
国から19校の小規模高校
の生徒や教員などが小国
町に集まり、小規模高校
の課題また小規模高校だ
から出来る事などについ
て発表と意見交換を行っ
た。そのイベントを通じ
ての小国高校生の成長お
よび成果について講話を
していただいた。

文教産建 常任委員会

所管事務調査

開催日 1月24日(木)

地域整備課

*除雪の状況について

*都市計画の見直しにつ
いて

開催日 2月1日(金)

産業振興課

*30年産米の集荷状況
と減収対策について

*新たな水稲共済制度の
概要について

開催日 2月21日(木)

教育委員会

*公共スポーツ施設等検
討委員会の取りまとめ
結果(案)について

地域整備課

*社会資本整備総合交付
金事業について

産業振興課

*白い森おぐにビジネス
コンテストについて

*地域経済活性化支援事
業について

*地域商業サービス支援
事業について

開催日 3月12日(火)

教育委員会

*小国町中央児童室の定
員の見直しについて

総務厚生 常任委員会

所管事務調査

開催日 2月25日(月)

健康福祉課から3事業
について説明を受けた。

*第7期小国町介護保険
事業計画の進捗状況に
ついて

初任者研修、認知症
初期支援チーム、サポ
ーター養成の取組み等
の説明を受けた。

*第4期小国町健康増進
計画・自殺対策計画(案)
について

生活習慣病等の予防
や健康サポーター等に
よる介護予防事業の取
組み等、心と体の健康
づくり事業の計画につ
いて説明を受けた。

*風疹に関する追加対策
等について

風疹抗体検査等の該
当者が約800名。検
査や予防接種を無料で
行う実施内容について
の説明を受けた。

山形県町村議会議長会 自治功労者表彰



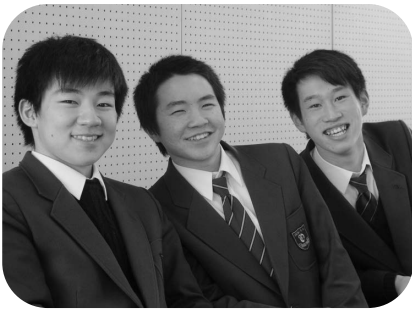
議員在職11年 小林 嘉議員
遠藤 和彦議員



議員在職23年
伊藤 重廣議員

おらも おぐに町民

町の人からちょっとひとこと
高校生議会で一般質問を
してくれた3人にインタビュー



左から奥村君、八幡君、齋藤君

プロフィール

名前（住所） 就職先

奥村広之（栃倉）

グローバルウエーハズ・

ジャパン株式会社

八幡竜馬（岩井沢）

小国町役場

齋藤紫吹（五味沢）

置賜広域行政事務組合



Q 地元の高校に通学して良かったと思うことは？

奥村君 幼い頃から一緒に過ごしていた仲間とより一層仲良くなった。

八幡君 学校には、中学校から一緒に過ごしてきた上級生や下級生が多く、話しやすかった。

齋藤君 地域との関わりから学ぶことが多かった。安心して過ごすことができた。

Q 今後社会人になり、やってみたいことは？

奥村君 お金をためて旅行をしたい。

八幡君 町の発展に携わりたい。

齋藤君 消防士として、避難訓練などで地域の人と交流をしていきたい。

Q 小中学生との関わりで、今後小国高校生が取り組んでいくべきだと思うことは？

奥村君 スポーツを通しての交流。

八幡君 スポ少や、中学校高校の部活動を通しての交流。

齋藤君 小国高校の文化祭や体育祭などへ、小中学生も参加できるような取り組み。

Q あなたにとって「仲間」とは？

奥村君 1人でできないときや、困ったときに一緒に解決できる存在。

八幡君 元気を与えてくれる存在。



る存在。

齋藤君 離れると寂しくなる。居て当たり前のような存在。

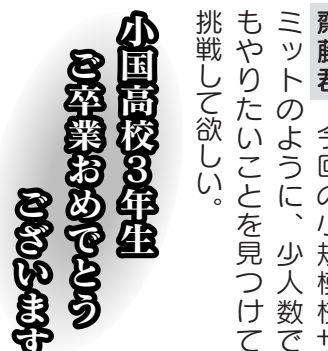
Q 後輩に伝えたいことは？

奥村君 規則は守ろう。

八幡君 準備も大切だけど、その時を楽しめ！

齋藤君 今回の小規模校サミットのよさに、少人数でもやりたいことを見つけて挑戦して欲しい。

小国高校3年生の卒業おめでとうです。



次は6月定例会です。傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局（62）2448

編集後記

平成最後の「議会だより」発行となりました。

取材時はもとより、発行にあたっては多くの方々にご協力を賜りましたこと、心から御礼申し上げます。

さて、この「議会だより」が皆様のお手元に届く頃には、新元号が発表になっていると思われます。

いよいよ改元に向けた動きが様々な分野で活発化してくるでしょう。

広報も新たな気持ちと技術で親しまれる「議会だより」となり、町民みなさまと新しい時代を歩んでまいります。

間宮（記）

発行責任者

議長 高野 健人

議会広報特別委員会

委員長 小関 和好

副委員長 今 康成

委員 石山久美子

間宮 尚江